

第7回公開授業(中1総合) 「だれもが元気になる村づくりを考えよう」

これまで、高齢者をはじめ、だれもが元気になる村づくりに向けて、社会福祉協議会の方と様々な活動を行ってきました。活動を通して、村づくりに大切なこととして「地域の方の思いや願いを知り、応える活動」「地域と協働した活動」また、「健康」「安心」「結びつき」「役立ち感」など様々な視点で考える必要があることも理解してきました。それらをもとに、持続可能なこととして、どのようなことができるか考えてきました。本時は、それぞれの案を班で共有し、一番良い案を検討しました。その後、ワールドカフェ方式で互いの案について意見を出し合い、再度、自分たちの案についてより良い案になるよう検討しました。これまでの体験や他者の意見をもとに、生徒主体で話し合い、より良い案を考えようとする姿が見られました。



村づくりに大切なこと キーワードふりかえり



できることについて班で共有



班で1つの案に



ワールドカフェ式で各班の案を検討



質問や意見を出し合い検討



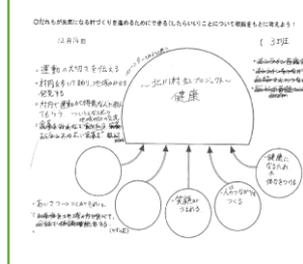
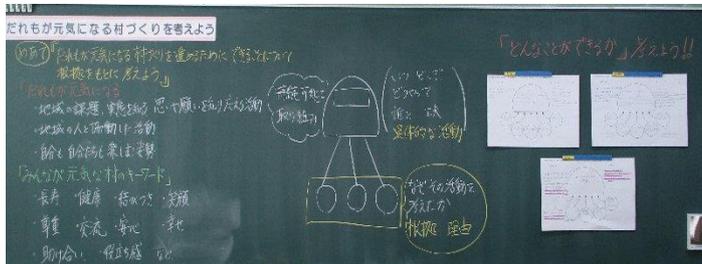
他班の情報も参考に自分たちの案を再考



より良い案へ。色ペンで加筆修正



ふりかえり



自分たちの案の具体例を書くことができ
た。ワールドカフェで他の班の意見を聴いて
変わったところもあって、改善していけばも
っとよくなるんじゃないかと思った。

共通取組事項！

★体験活動 ⇒ 概念化

収束する時間を大切にして概念化へ

体験から何を学ばせたいか明確に！

★生徒主体・意見を出し合い学び合う場

ワールドカフェ形式等

他教科でも！

教師の支援、評価

活動の目的、視点、方法を明確に！

★ふりかえり

自己と対話 ⇒共有して学びを広げる

中1の授業映像

「校内研修」→「2学期」「中1公開」

★カリキュラム・マネジメント

各教科等のつながりを共有

カリキュラム表の見直し ⇒ 次年度の計画へ

指導助言 (小松指導主事より)

探究課題について

○福祉をテーマ 「だれもが元気になる村づくりを考えよう」

- ・高齢者を入り口として、様々な立場の人を含めた村づくりへ。
- ・現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題を扱っている。
- ・持続可能な社会の実現に関わる課題

正解や答えは1つに定まっていない。

⇒教科等の枠組みでは適切に扱うことができないから、こうした課題を総合で扱うところに意義がある。
(解決を通して、資質・能力を育成する)



教科間で共有する場が大切！
カリキュラム表の見直しを！

カリキュラムマネジメントが大切 (見直して次年度へ)

カリキュラム表を見ると、関連の矢印が少ない。福祉を扱う教科がどのくらいあるか。

どの学年で扱うと効果的のかも含めて見直し、加筆修正 ⇒次年度の計画へ

授業について

○たくさん活動 ⇒概念化できている

村の支援のおかげで、多くの人とつながりながら活動できている。

活動の振り返りがよく書けている。 ⇨ 小学校からの積み重ねが大切

地域の人と想いを共有し、協働で取り組むことが大切＝概念化

キーワードがたくさん言っていた。⇨掲示物でいつでも見られるようにするといい。

どのように概念化するか教師が明確に



○めあての確認 めあてや視点をはじめに明確にしておく。

○ワールドカフェ形式の交流

・1995年 企業で開発された形式

・全員参加し、相手の意見に耳を傾けたり、説明したりできる ⇨情報を多くとれる。責任感をもたせることができる。

・活動の目的や視点を明確にさせておくことが大事

目的:より良い案にする。

視点:持続可能かどうかとも入れるといい。(自分たちがいなくてもできるか)

・3回行って、聞く側、説明する側を経験するとよい。

目的、視点を明確に！

他教科でも取り組む！

○理由・根拠をもとに考える

・クラゲチャートの足の記述の部分が「理由」「根拠」が不明確

・「理由」:予想でもよい 「根拠」:裏付けとなるデータ等

ノートを活用し、小中で継続を！

○振り返り (自己との対話) ⇨ 共有 (学びを広げる)

・振り返りを見ると、どのような学びをしているかわかる。概念に迫る振り返りが書けている。「こういうことがわかった」

・振り返りの中で、自己と対話ができている。⇨共有も大事

○評価 ⇨ 学びの推進力

・教師も共感し、評価を！

ふりかえりまとめ



授業や協議で学んだこと、生かしたいこと

★本時の目標：「だれもが元気になる村づくり」をさらに進めるためにどんなことができるか、村づくりにとって大切なことや体験から学んだことをもとに考える。

○ワールドカフェ形式

目的や視点を明確に

クラゲチャート等、思考ツールを活用した話し合いの時の留意点

- 一人一役で活動できるという面ではよい。活用していきたい。
- 生徒に任せ、生徒主体で話し合い、深めるような活動ができています。(共通取組事項を意識した活動)
- 各班を見て協議したり、自分が説明したりすることで学びが深くなる。(複数回、全員が各役割を)
- 短時間で必要な情報交換ができる。
- 目的や視点、やり方を明確にすることが大切 (何のために、どのように用いるか、視点は何か)
- 机間指導、個別指導の支援を具体的に考えておく。(アドバイス、評価等)
- 課題解決に向けて、質問や意見を出す力を高める。「なぜ? どうやって? それで? でも・・・」
- 批判的思考力も大事。「わかりました」と共感するだけでなく)

教育活動全体で

○活動や体験にもとづいた活動からの深め方

- ・活動や体験に基づいた学びができています。それをどのように集約し、深めていくかが全体の課題
- ・総合的な学習だけでなく、教科や特別活動においても考えていかなければならない。

○肯定的評価

- ・随時、肯定的評価を入れた指導⇒学習意欲を高める。より良い学び方を指導する。

○振り返りの充実 ⇒共有 ⇒学びを広げる・深める

- ・「できた。わかった」だけではなく、何を振り返って書かせるか明確にしておく。
- ・振り返りを書くことで、自己と対話できる。「何が大切か」等、概念になることも書けているので、それを共有すること

○小・中の学び方をつなげる

- ・「だれもが元気になる村づくり」という大きなテーマの中で、各生徒が「聞く」「書く」「話す」力がついてきているように思う。(クラゲチャートやワールドカフェ等、思考しやすい工夫)
- ・小学校からの積み重ねがとても大切だと感じた。
- ・小学校からノートを活用した振り返りを継続している成果が出ている。学び方をつなげることも大事。

○カリキュラム・マネジメントの充実

教科の中だけでは解決できないことを総合で行うために、カリマネで確認。矢印の加筆修正、計画の見直しを年度末に!